

イースター 2024年
庭:ここで良いものが育つ
2024年・3月・31日
牧師: ボー・スターン・ブレイディー

先週の復習: 私の時はまだ来ていない。私の時はまだ来ていない。私の時はまだ来ていない。(すべては意図的である) それから、町全体が彼を崇拜する。パリサイ人は歯ぎしりして彼の死を企てている。なぜなら「全世界が彼に従っている」ように見えるからだ。何人かのギリシャ人が弟子たちのところに来て、彼らの男に会いたいと頼む。彼らはイエスのもとに行き、良い知らせを伝えた。すべてが上向きで右向きだ。イエスは答えた:

”すると、イエスは答えて言われた、「人の子が栄光を受ける時がきた。」
ヨハネによる福音書 12:23 口語訳

栄光ある(ドクサステ) = 名誉を与える、高める、新しくする、優れたものにする
良いニュースのように思えます。でも待ってください...

”よくよくあなたがたに言う。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。”
ヨハネによる福音書 12:24 口語訳

死(アポタネー) = 神の終結に常に伴う分離の重要性。自然に続くものをもたらすために「以前の」ものの終わりを強調する。
そしてイエスは彼らに言う。「あなた方も同じです。自分の命を愛する人はそれを失い、自分の命を手放す人はそれを見つけ、それは永遠に増殖します。」
この概念は、自由の国であり、勇敢な人々の故郷である私たちにとっては異質なものではありません。ここでは多くの人が命を捨て、残りの私たちが命を守れるようにしてきました。異質ではありませんが、難しいものです。宇宙の王であるイエスでさえも苦勞しています。27節:

”今わたしは心が騒いでいる。わたしはなんと言おうか。父よ、この時からわたしをお救い下さい。しかし、わたしはこのために、この時に至ったのです。”
ヨハネによる福音書 12:27 口語訳

悲しみ(手放すのは辛い)、不安(信頼するのは怖い)...人生を手放すのは簡単ではありません...直感に反しますが、美しく、価値があります。
種の科学。種が生きるためには殻が死ななければなりません。私たちはただ「放っておく」のではなく、意図的に良い土に植えます。小さな種を受け取って養い、丈夫な木を増やす方法を正確に知っている信頼できる土に。
結果はどうでしょうか? 果実が現れます。種の殻が残ります。果実/花はますます多くの果実を実らせます。神は庭師です。神は私たちを救うために私たちの世界の庭に息子を植え、常に私たちを神の中に植えています。神は良いものを育てます。良いものとは何でしょうか?

(これらの言葉はすべて1つのスライドに収まるので、すぐに説明します。)

希望 愛する神は私たちのためにもっと多くのものを用意してくださり、その多さは良いことだと教えてくれます。(永遠、今とまだ)

治癒

愛にあふれた神は、過去と現在の傷ついた場所で私たちと出会います。神はすべてのものを神の善良で完全な意志に沿わせます。

自由さ

神の力強い愛は私たちを解放し、価値のない神々に私たちを縛り付ける鎖を断ち切ります。

繁栄

私たちは神の愛の中で完成(完全で成熟)しています。欠けているもの、壊れているもの、縛られているものは何もありません。私たちが本来あるべき姿で存在し、成長しています。(喜びと目的)
私たちが根をしっかりと張っている限り、庭師が私たちの中にこれらのものを育ててくれると信頼できます。私たちは、神の慎重な手に委ね、神のほうがよく知っているという信念にすべてを賭けます。神はより優れた庭師です。神はより優れたものを育てます。

人生は奇妙な性質を持っており、自分の意志で手に入れたいという欲求を完全に逃れ、私たちがそれをしっかりと保持したいと望むときに失われ、私たちがそれを放棄するときに勝ち取られるのです。ルドルフ・ブルトマン (ヨハネの解説)

話を戻しましょう...先へ進みましょう。イエスは告発者たちと対峙しました。イエスは無罪と宣告されましたが、死刑を宣告されました。イエスは嘲笑する群衆の前で十字架に釘付けにされました。イエスは泥棒に新しい人生への安全な道を約束しました。イエスは母親を友人のヨハネに託しました。そして「すべてが終わった」と言い、死にました。

”そののち、ユダヤ人をはばかり、ひそかにイエスの弟子となったアリマタヤのヨセフという人が、イエスの死体を取りおろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトはそれを許したので、彼はイエスの死体を取りおろしに行った。 また、前に、夜、イエスのみもとに行ったニコデモも、没薬と沈香とをまぜたものを百斤ほど持ってきた。彼らは、イエスの死体を取りおろし、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがって、香料を入れて亜麻布で巻いた。 イエスが十字架にかけられた所には、一つの園があり、そこにはまだだれも葬られたことのない新しい墓があった。 その日はユダヤ人の準備の日であったので、その墓が近くにあったため、イエスをそこに納めた。”

ヨハネによる福音書 19:38-42 口語訳

ヨセフは、自分の破れた夢を庭の墓に埋めます。その周りには、またしても途方もなく豪華な香料の供え物が置かれています。彼らは傷つき血まみれになったイエスの遺体を、まったく別の種類の庭に植えます。あなたは夢を手放したことがありますか？計画を手放したことがありますか？イエスがあなたが探していた人であるという希望を捨てたことがありますか？それが、このひどく、最悪で、最悪の日に彼らがいたことです。彼らは最も暗い瞬間にいますが、想

像していた以上の希望があと3日で手に入ります。彼らは夢を手放しますが、その夢と墓と香料も取り戻すことになります。

日曜日のページをめくってみましょう:

そのとき、マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら、身をかがめて墓の中をのぞくと、イエスの遺体があった場所に、一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っている白い衣の天使が二人いるのが見えた。彼らはマリアに尋ねた。「婦人よ、なぜ泣いているのですか。」

「私の主が連れ去られました」とマリアは言った。「どこに置いたのか、私にはわかりません。」そこでマリアは振り向いて、そこにイエスが立っているのを見たが、それがイエスだとは気づかなかった。イエスはマリアに尋ねた。「婦人よ、なぜ泣いているのですか。誰を捜しているのですか。」

マリアは庭師だと思い、「主よ、あなたが連れ去ったのなら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります。」と言った。

ここで起こっているいくつかの出来事は実に注目すべきもので、マリアと彼女の信仰について多くのことを教えてください。

彼女は墓のそばにいて、中を覗きます。それ自体が恐ろしいことです。彼女は天使が天使だとは気づかず、「彼らは私の主を連れて行きました...」と言います。ヨハネの福音書でイエスが主と呼ばれているのはこれが初めてです。そしてマリアはイエスの墓の前に立ってこれを言っています。これが彼女の信仰の強靭さです。そして彼女はイエスがイエスだと知らずに、「彼をどこに置いたのか教えてください。私が連れて行きます」と言います。小さな女性がどうやって成人した死体を運ぶのでしょうか。これが彼女の信仰の情熱です。

しかし、マリヤは墓の外に立って泣いていた。そして泣きながら、身をかがめて墓の中をのぞくと、白い衣を着たふたりの御使が、イエスの死体のおかれていた場所に、ひとり頭の方に、ひとり足の方に、すわっているのを見た。すると、彼らはマリヤに、「女よ、なぜ泣いているのか」と言った。マリヤは彼らに言った、「だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです」。そう言って、うしろをふり向くと、そこにイエスが立っておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかなかった。イエスは女に言われた、「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」。マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、「もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります」。イエスは彼女に「マリヤよ」と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で「ラボニ」と言った。それは、先生という意味である。イエスは彼女に言われた、「わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行って、『わたしは、わたしの父

またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい」。 マグダラのマリヤは弟子たちのところに行って、自分が主に会ったこと、またイエスがこれこれのことを自分に仰せになったことを、報告した。“

ヨハネによる福音書 20:11-18 口語訳

マリアは、埋められた種が生きているという知らせを最初に伝える人になります。庭師と庭は一つです。失われた希望に鼓動があります。ヨハネによる福音書の残りのページ、わずか2章で、「主」という言葉が14回使われます。彼らは主が生涯で何をなさったかを見て、主に従いました。彼らは想像を超える奇跡を見ました。彼らは主の教えを聞きました。彼らは主の愛を見ました。しかし、種が落ちて死ぬまで、主は「主」ではありませんでした。それは起こらなければなりません。それは父の意志でしたが、それはまた、主の本当の姿を見るために私たちが必要としていたことでもありました。

シードペーパーの説明。 (キーがバックアップされました)

種の入った花瓶と花束。種の詰まった瓶とリンゴの入った籠。種は美しくありません。小さくて地味で灰色です。種が持つ美しさは、その潜在能力だけです。しかし、約束は土の中で解放されます。約束は待つことで解放されます。死にゆく人の中で。希望の中で。傷つく人の中で。復活の中で。金曜日が土曜日になり、日曜日になります...そして悲しみの中で蒔かれた種が地面を突き破り、善良なる父の善行を明らかにするのを私たちは見ます。 (ビデオはここで再生されます...イントロはありません)

ビデオ.

歌.

祝祷.